
トレースバック実運用化への道 ～研究結果を踏まえて～

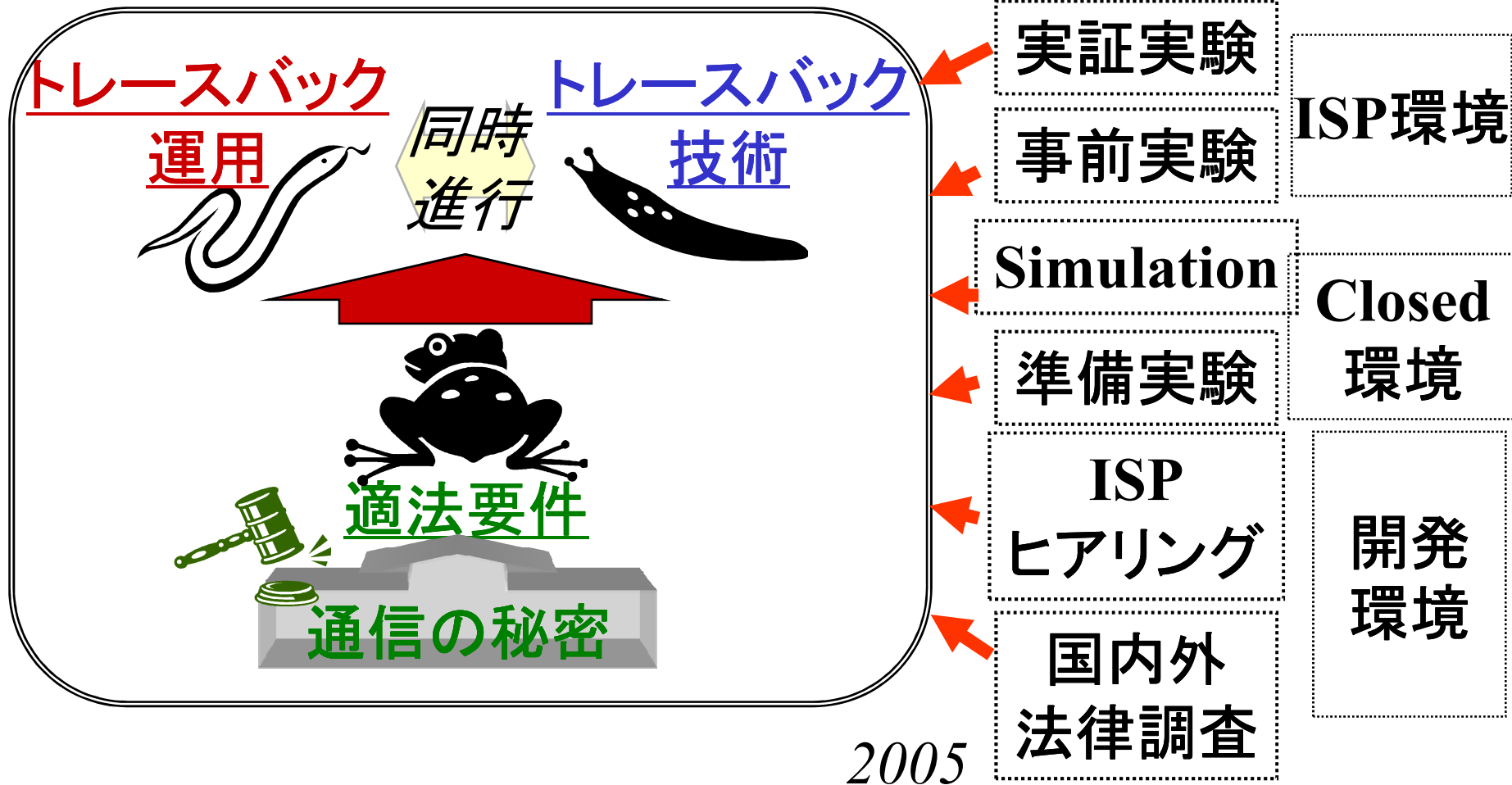
財) 日本データ通信協会
テレコム・アイザック部
若狭 賢



トレースバック研究の課題と進め方

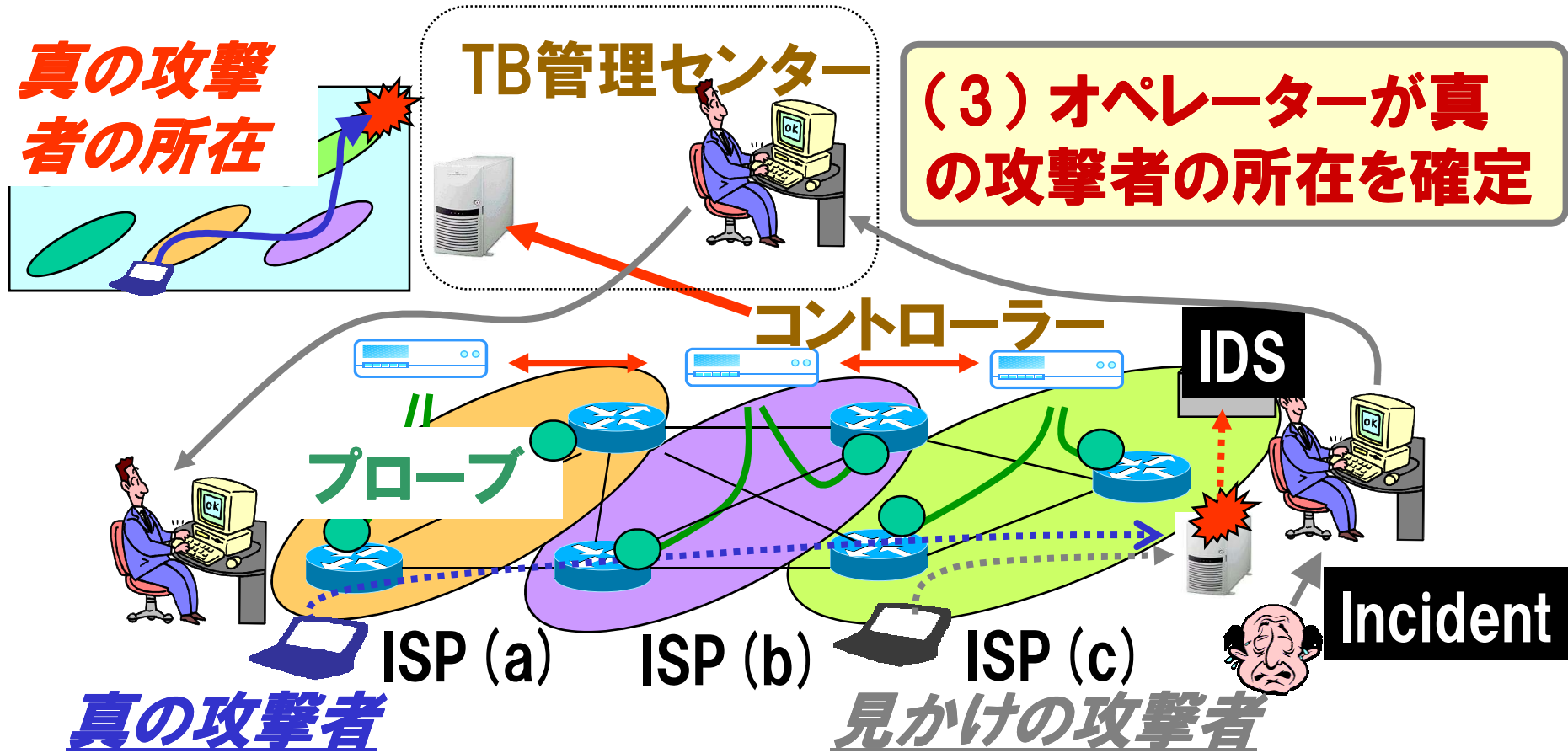
三すくみ

2009



独立行政法人情報通信研究機構の委託研究

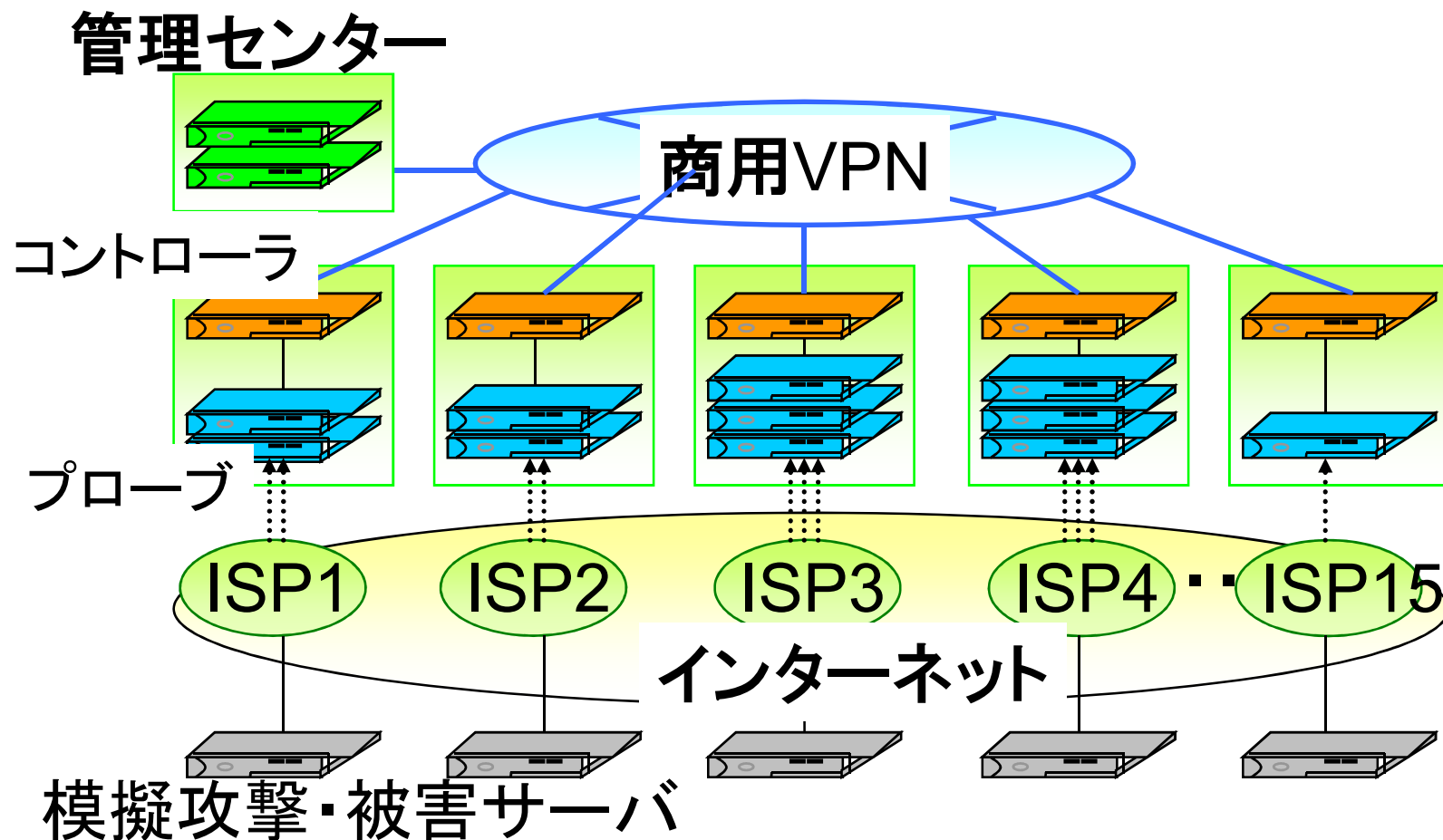
(2) 自動的に疑わしき攻撃の経路情報を保管.



(1) プローブは常時ハッシュ化したデータを取得.

大規模実証実験の概要

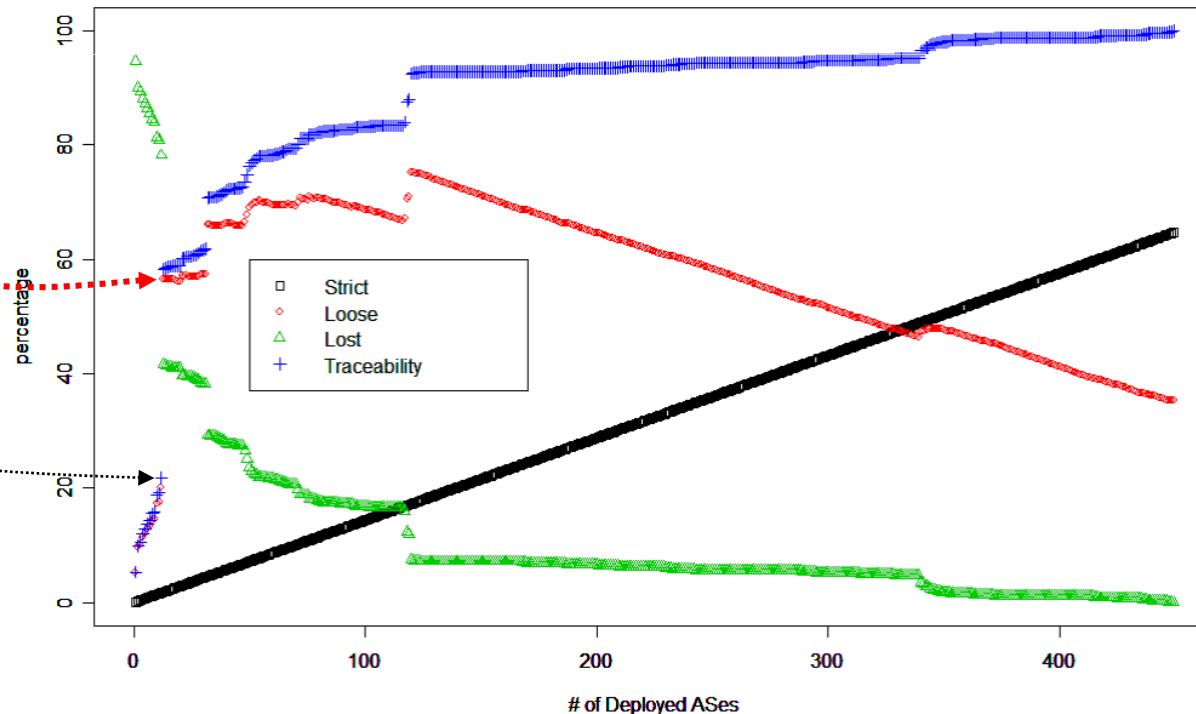
- ・ ISP-15社、および、3-研究所
- ・ 模擬攻撃を使用した実験、実インシデント実験



ISPへの導入シナリオの検討 (Simulation)



- ISP導入シナリオ案
 - 中小規模ISPに導入した後、上位ISPに導入
- Simulation結果
 - 中小1~12 21.75%
 - 上位1位 58.35%



- ・ 2005年～2009年
 - トレースバック・システムの前提条件
 - 実証実験の前提条件
 - 実験で発見された問題点
 - ISPヒアリング結果
- ・ 実運用化の課題の整理
 - 現実的な運用プロセスが必要
 - 実用的な補足率の実現が必要
 - ISP設備でプローブ機能が実現されるべき
 - 実運用に対応した再設計と作り直しが必要